

## 五位鷺

小野澤繁雄

すすきはら足より先にゆくなれどすすき騒いで触れてくるなり

北風がないから蔓が乾かぬとなげかぬながら人甘諸畑かんしょばた

山手線に乗ることありてそのときにまだ生きてるとおもうたまゆら

ひとクラスの生徒か少な小校庭は逆上がりさらいいる少年少女ら

冬川にならんとするや川にきてまだ草青き中州に見入る

アナウンスは停止位置修正を云うシートのままにわずかもどりぬ

塊りは黒々としているのみに林奥処にただ水がある

五位鷺がひとつうごかず沼の辺は三人の男それをみている

木枯らしの吹かんとする日げに心さわがしながら風車鳴る

八十代の人三人は初めてと云う書道教室に生徒の三人